

新潟市の学校給食に関する 子どもたちを放射能から守る会@新潟 の见解・要望

- 1) 流通食品の安全性は保証されていない
- 2) 新潟県における給食食材の検査方針
- 3) 新潟市の給食の現状
- 4) これまで出荷制限を受けた地域
- 5) 守る会@新潟の要望

1) 流通食品の安全性は 保証されていない

先の大塚厚生労働副大臣のコメント
「全品検査できるわけじゃないんです。サンプリングです
から。そういう風に考えると、規制値を超えたものが全く
流通していないということを残念ながら、我々も確信出来る
状況にはありません。」

実際に、厚生労働省による流通食品の抜き打ち検査で
食品の一部から基準値を超えた放射性物質が検出



基準値越えの食品を摂取してしまう危険に誰もがさらされ
ている現状に対して、多くの人が不安を感じている

2)新潟県における 給食食材の検査方針

9月16日発表

購入する検査機
7台(1台300万円前後)

検査対象
主に過去に出荷制限を受けた地域の食材を予定

3)新潟市の給食の現状

学校内で調理(76校)

給食センター利用(69校8園) ← 14給食センターで調理

スクールランチ利用(29校) ← 3外部委託業者で調理

概ね90前後の施設で異なる献立を元に調理されている



検査機一台では……

食材汚染をモニタリングする域を出ない

子どもが基準値越え食品を摂取してしまう危険を低減しない

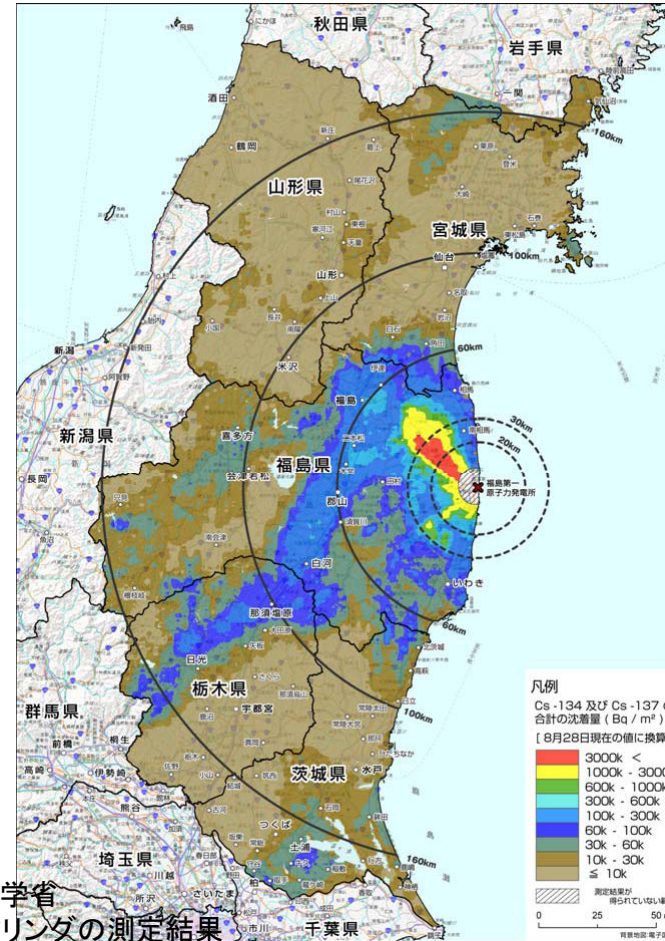
4) 出荷制限を受けた地域

出荷制限の指示対象となった地域

C:市町村を対象とするもの
P:県を対象とするもの



出典: 出荷制限の指示対象となったもの
<http://shukkka.info/map/shukka>



出典: 文部科学省
航空機モニタリングの測定結果

出荷制限地域は概ね30,000Bq/m²以上の汚染
同地域の食材は、事前に評価することが望ましい

5) 守る会@新潟の要望

- 1) 航空モニタリングの結果等を参考にして、より汚染されていない地域で生産された食材を給食に使用することを求めます。
- 2) 過去に出荷制限を受けた地域で生産された食材、並びに産地が同定できない加工食品などの食材は、事前検査で汚染の程度を評価することを求めます。
- 3) 事前検査の結果は、現在の暫定基準値よりも厳しい独自の基準値で、使用の可否を判断することを求めます。

5) 守る会@新潟の要望

- 4) 2)3)が実施困難である場合には、調理後の給食を、ゲルマニウム半導体核種分析装置を用いて検査し、汚染の程度を明らかにすることを求めます。
- 5) 栄養教諭に対して、給食による内部被ばくのリスクを低減するために必要な知識(汚染されやすい食材に関する知識、汚染を低減する調理法に関する知識など)を得る機会を提供することを求めます。

5) 守る会@新潟の要望

6) 1)-3)の実施が難しい場合、自衛権を認めること、
加えてその旨を文書で保護者に通達することを求めます。

- ・食材の産地を開示し、喫食の判断を児童・保護者に任せる。
- ・弁当、水筒持参制を導入する。

食品安全基本法3条には、
食品の安全は、国民の安全を最優先に対策が検討され
なければならない旨が記載されています。
放射線に対する感受性が高い子どもへの配慮を最優先
する、給食の安全対策を求めます。